

●第 47 回地盤震動シンポジウム(2019)●

強震動予測研究と設計用入力地震動 ～ この 10 年を振り返り考える ～

＜主催＞ 日本建築学会構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

「地盤震動研究を活かした設計用入力地震動作成法」が出版されて 10 年となる。この間に平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震を含む海溝型地震や平成 28 年（2016 年）熊本地震を含むいくつかの地殻内地震を経験し、地震観測記録などに基づく新たな知見を得て、強震動予測に活かすべく様々な角度から研究が進められている。これらの知見をふまえた強震動予測や設計用入力地震動について研究者と設計者で共有することは将来起こる地震に対する耐震検討を行う上で有益と思われる。本シンポジウムではこの 10 年に起こった地震の特徴と得られた知見について改めて確認しつつ、最新の知見を活かした強震動予測研究に関して認識を共有し、さらに設計用入力地震動の策定事例を通して幅広く議論する。

日 時：2019 年 11 月 15 日（金）10:00～17:00

場 所：建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20）

内 容（各講演の題目等は変更されることがあります）

司会：大野 晋（東北大学）・神野達夫（九州大学）

：上林宏敏（小委員会主査／京都大学）

1. 主旨説明 10:00～10:10

2. この 10 年間の主な地震の強震動とその解釈 10:10～11:25

2-1 平成 30 年北海道胆振東部地震の強震動と震源モデル : 浅野公之（京都大学）

2-2 平成 28 年（2016 年）熊本地震－震源近傍記録の再現とその解釈－

: 永野正行（東京理科大学）

2-3 平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震の強震動による震源モデルと津波シミュレーション

: 吉田邦一（地域地盤環境研究所）

司会：引間和人（東京電力ホールディングス）

3. 特別講演 11:30～12:30

3-1 断層近傍の強震動について

: 額縁一起（東京大学）

司会：松島信一（京都大学）・高井伸雄（北海道大学）

4. 強震動予測研究の現在地 13:40～14:55

4-1 強震動予測の震源モデル化の現状 : 三宅弘恵（東京大学）

4-2 関東地方における深部地盤構造モデルについて : 鈴木晴彦（応用地質）

4-3 強震動計算法の現状 : 川辺秀憲（大阪大学）

司会：大堀道広（福井大学）・三浦弘之（広島大学）

5. 設計用入力地震動の策定及び適用事例 15:05～16:20

5-1 南海トラフ地震の設計用長周期地震動 : 小山信（国土技術政策総合研究所）

5-2 土木分野における設計用入力地震動－特にサイト波について－

: 野津厚（港湾空港技術研究所）

5-3 300m 超高層建物と入力地震動 : 佐分利和宏（竹中工務店）

司会：高橋広人（名城大学）・関口徹（千葉大学）

6. 総合討論：強震動予測研究を設計用入力地震動にいかにかかすか 16:20～17:00

記録：田中清和（大林組）

定 員：180 名（当日会場先着順）

参加費：会員 5,000 円、会員外 8,000 円、学生 3,000 円 *資料代 3,000 円含む

問合せ：事務局研究事業グループ 伏見 Tel.03-3456-2057